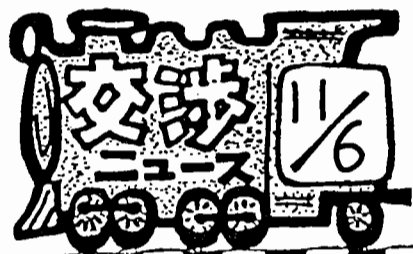


国鉄当局・動労「本部」革マル・鉄労一体となった

昇給協定『片仕切り』を弾劾する



日刊 動労千葉

83. 11. 8

No. 1487

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五・六（公衆）〇四七二・二二〇七

「信賞必罰」差別・分断 支配狙う 昇給協定改悪を許すな

国鉄当局は十一月六日、二三時、動労「本部」、鉄労、全施労との間で、一方的に昇給協定を締結しました。

これは、国鉄当局と動労「本部」革マル、鉄労が組んだ「片仕切り」であり、動労千葉、国鉄労の組織破壊を狙った許すことのできない攻撃です。

国鉄労働運動圧殺攻撃を露骨に強めている国鉄当局を弾劾するとともに、当局の昇給協定改悪攻撃に屈服し、国鉄労働者を裏切った動労「本部」革マルを全職場から放逐しようではありませんか。

労働者の差別・分断支配、労組破壊を狙う昇給協定改悪案

昇給協定は本年三月三十一日で期限切れとなり、新しい協定を締結するにあたり、動労千葉は三月一五日、「申第11号」をもって四月期定期昇給に関する申し入れを行いました。

しかし、当局は組合側の申し入れを無視したばかりか、昇給協定の改訂時期を過ぎた六月一五日に至り、昇給協定の改悪提案を行ってきました。

この改悪提案の問題点は、第一に、地方機関での昇給協定の締結を排除していること、第二に、病欠の特例「46日以上」を「41日以上」に短縮していること、第三に、3項8号適用基準を強化し管理者の一方的裁量権を強化していること、第四に、回復昇給制度の改悪であること、などであります。

これは、「信賞必罰の職員管理」を主張する臨調―国鉄再建監理委員会の意向を受けた、労働者差別・分断支配による労働組合破壊攻撃以外のなものでもありません。

動労千葉は団体会交渉のなかで、改悪案の撤回を強く要求し当局を追及してきました。

許せぬ国鉄当局の 問答無用の高圧的姿勢

こうした経過のなかで行われた十一月四日の昇給に関する中央交渉の席上、国鉄当局は昇給協定改訂の最終的考え方として、本年六月一五日に提案した「改訂案」を一言一句も変更することなしに妥結をせまってきました。

しかも許せないことには、交渉継続中にもかかわらず当局は各職場に「昇給交渉の経過について」なる掲示を貼りだし、昇給交渉の遅れがあたかも組合側の責任であるかのような主張を行うなど、交渉ルールを無視した一方的行為を行いました。

動労千葉はこうした理不尽な攻撃に対し、十一月五日、当局に強く抗議を申し入れるとともに、改

めて組合主張に基づく解決をはかるよう厳しく追及しました。

しかし当局は、「交渉の経過を職員に明らかにしただけである」と居直り、「六日いっぱいをかけて団体交渉で解決を図りたい」との高圧的姿勢に終始しました。

さらに、十一月六日の団体会交渉においても、「提案を変えることはできない」旨の答えに終始したのであります。

国鉄当局と同一の主張で 責任を転嫁する動労「本部」革マル

ところが、動労「本部」は六日、鉄労、全施労とともに「改訂案」を受け入れたばかりか、また「片仕切り」を強行するという裏切りに走りました。

動労「本部」は、「国労が公労委に提訴したから労使交渉にブレーキがかかり、当局の厳しい攻撃を一層固定化させた」と、当局と同一の主張で国労を攻撃しています。

「提案内容は一ミリたりとも修正しない」なる当局の高圧的態度は、明らかに動労「本部」と鉄労の裏切りに支えられたものに他なりません。

今回の昇給交渉をめぐる、当局、動労「本部」革マル、鉄労の「片仕切り」は、「57・11ダイ改」「現協協約」と同様の裏切りであり、動労千葉、国労に対する組織破壊攻撃であります。

動労千葉は、六日深夜かかる暴挙を断固糾弾するとともに、このことよって生ずる混乱の一切の責任は当局にあること、「地方交渉」「回復是正」「3項8号」問題での誠意ある解決を申し入れて交渉を打ち切りました。

すべての国鉄労働者は、11・9レーガン来日阻止闘争をはじめとする秋年闘争に総決起し、当局、動労「本部」革マル、鉄労一体となった「59・2ダイ改」「動乗勤」での裏切り策動を許さず闘いぬこうではありませんか。